

ゆめ
あまのこ
童夢

菅波 茂

出た。

「救える命があればどこへでも」のスローガンのもとに、AMDA多国籍医師団の災害医療救援活動を実施している。06年11月のフィリピン台風2号被害、同12月には豪雨によるスマトラ島北部洪水被害が発生した。いずれも日本のメディアには大々的に報道されなかった。報道なければ寄付金少なし。それでもAMDA多国籍医師団は大義に殉じることが出来た。その事情を説明したい。

04年12月26日にスマトラ島沖大地震・津波が発生して2年目にあたる先月21日、スマトラ島北部で豪雨による死者100人以上・行方不明者数百人、被災者35万人の被害が

AMDAは同28日から緊急医療支援を行っている。被災地のウマム・デラ・タミアン病院や保健所支援活動に加え、ベンダハラ周辺の村々での巡回診療を実施。道路は洪水で遮断されており、支援の行き届いていない村長や村人から大歓迎された。

日本とインドネシア支部による医師団の主力はバンダ・アチェにあるザイナル・アビディン病院の医師や看護師だった。2年前の津波ではバンダ・アチェにあった六つの総合病院のうち、四つが崩壊し、一つは大半の職員の死

04年12月26日にスマトラ島沖大地震・津波が発生して2年目にあたる先月21日、スマトラ島北部で豪雨による死者100人以上・行方不明者数百人、被災者35万人の被害が

スマトラ洪水

で、AMDA多国籍医師団の拠点として緊急手術、ICU病棟の設置や病院システムの構築を実施。復旧支援として同病院の医師や看護師に「麻酔科医師派遣支援」「看護師研修派遣」「行政担当者用医療機関緊急時対応研修」や「外傷に対する初期治療の向上研修」などのプログラムなどを2年間にわたって提供した。「地元の問題に一番良く精その受講経験者たちが主力となった。今回の迅速な連携はその実績と信頼によるものだった。

ちなみに、フィリピン台風21号の被災地では1500人以上の死者・行方不明と10万人以上の被災者を出した。緊急医療支援活動は先月1日から30日まで実施。日本、フィリピン、インドネシア、ネパームという姿勢が理解されていくからであらう。

(AMDA代表)